



発行人 神山 裕也

発行所・事務局 社団法人千葉県社会福祉士会

〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-3

千葉県社会福祉センター 4階

TEL043-238-2866

FAX043-238-2867

<http://www.cswchiba.com/>

E-mail: office@cschwiba.com

※ 点と線はメール配信でも読めます！

特集 紙面座談会 ～介護現場の社会福祉士～



私たちは今、超高齢社会を生きています。

介護を必要とする高齢者を支える現場に、社会福祉士の活躍の場があります。

介護の現場で働く社会福祉士は、どのようなことに葛藤し、乗り越えているのでしょうか。

『介護の現場で、社会福祉士だからこそできること』

みんなで考えてみませんか？

- 2 特集 紙面座談会 ～介護現場の社会福祉士～
 - ◆介護職の経験と、その中で感じたこと
 - ◆介護の現場において社会福祉士として与えられる影響について
 - ◆介護の現場で感じる社会福祉士としての葛藤
 - ◆後輩へ伝えたいこと
- 5 Topics ～迫り来る医療難民時代に向けて～
- 6 コラム「東日本大震災から学ぶ」
- 7 地域集会 山武・東金・芝山・横芝光地区
- 8 社会福祉士の輪
- 9 三団体リレーコラム / 一般社団法人への移行についてのご報告
- 11 第一回独立型社会福祉士・千葉実践研究会
- 12 事務局だより

特集

紙面座談会

介護現場の社会福祉士

【座長】

広報部会員

山口定之

【シンポジスト】

◆通所介護事業所ウエルリーフ初石

生活相談員 川端高広氏

大学卒業と同時に社会福祉士資格取得。現在の職場で五年目。

◆ハートウェル（柏・我孫子エリア）

福祉用具専門相談員 宮澤香織氏

大学卒業と同時に社会福祉士資格取得。現在は二年目。

◆ヤックスヘルパーステーション豊四季

管理者 渡邊元子氏

他業種より三〇代にて介護福祉士へ転職。通信教育を終了後、社会福祉士資格取得。サービス提供責任者になり、五年目。

◆介護職の経験と、その中で感じたこと

座長…社会福祉士として介護現場で仕事をする上で、どのような気持ちを抱いていましたか？

川端…入職後、特別養護老人ホームで介護職として三年間従事しました。その間、介護の仕事をしながらも社会福祉士の専門性をどう活かすか葛藤がありました。将来的にはご利用者やご家族の話を積極的

に聴くことを意識し、権利擁護の視点も持った相談員になりたいと思っていました。また、ひとつの環境

（職場）に留まることで視野が狭くならないよう、外部の研修などにも積極的に参加し、外部の社会福祉士の話も聞くようにしました。

宮澤…私は介護現場の経験は学生時代の実習とアルバイトのみですが、その際に介護現場では人手不足の問題や、腰を痛める職員が多いこ

となどの実情を目の当たりにし、学校で習うこととのギャップを感じました。介護をする側もされる側も、両方を支えられる福祉用具に興味を持ちました。

渡邊…私も、施設に実習に行った際には、何もわからずに大変な思いをしました。環境や雰囲気など、現場の大変さを知りました。働く場としては、施設サービスか在宅サービスかを迷いましたが、個別支援で契約から実際のサービス提供までを全体的に見ていける在宅サービスを選びました。

座長…学生や介護職員の頃は、自分の生涯の仕事について、どう考えていましたか？また、目指すのはどのようなところでしょうか。

川端…学生の頃は、資格を取得することが目的になっていました。実際に現場で働いてみて、自分の方向性（施設、在宅サービスのどちらか）に悩みましたが、尊敬する先輩からご利用者が住み慣れた地域で生活

することを支援する仕事の素晴らしさに気づかせてもらいました。やればやるほど、魅力を感じています。

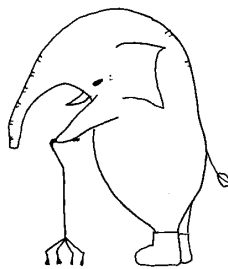
宮澤…子どものころからお年寄りが大好きだったので、中学生の頃には介護の仕事に就きたいとの思いを持っていました。

渡邊…畳の上で最期を迎えたいとの思いを持っていらいっしやる方は多いと思います。その思いに沿って、支えていきたいと思います。各家庭で考えや手順が違い、中には拒否的な家庭もありますが、関わりの中で



座談会の参加者 左から山口氏、川端氏、宮澤氏、渡邊氏

ご利用者やご家族と歩み寄り、スタッフとも協力しあえるようになっていくことが嬉しいのです。今は、何事もなく一日が終わるとホッとします。



◆介護の現場において社会福祉士として与えられる影響について

座長…介護の仕事と社会福祉士の仕事は、車の両輪に例えられると思います。介護の現場に社会福祉士としてどんな影響を与えられると思いますか？

川端…介護の現場では、人材不足の影響や、時間に追われることで雑になったり、言葉が荒くなったりする様子が見られました。社会福祉士の権利擁護の視点を活かして、接遇の質を高めることに貢献できると思っています。社会福祉士の強みは、職場内外のネットワークを活かして、情報交換をしていける点にもあ

ると思います。例えば、介護職だけではなく、理学療法士のようなリハビリテーションの専門家から見たご利用者の情報を聞くなど、つながることで業務を円滑に進めることができますし、他業種の考え方を吸収することもできます。

座長…現場にあつて冷静な気持ちを持ち続けることは相当なエネルギーを要すると思います。気持ちを持続させていくことは難しいのではないのでしょうか？

川端…ご利用者も、職員も、人それぞれの考え方があります。合う、合わないがありますし、時にはぶつかることもあります。それはご利用者のためにという前向きな衝突



だと思っています。ぶれない介護観、決

意のようなものを持って、「自分だからこそ出来る関わりがある」と意識しています。

座長…宮澤さんは、福祉用具専門相談員として業務にあたるうえで、社会福祉士としての視点として大切にしていることはありますか？また、仕事の中で、チームとして動くことはありますか？

宮澤…職場内では、企業の営業職として達成すべき数字等の話が出てきます。ご利用者の ADL 向上や QOL 向上に効果が期待できる動きは、効率化とは矛盾する場合もあります。それでもご本人を中心として、支えていくという気持ちは他の福祉職と変わりはありませんし、現場では、チームの一員だと思っています。

また、私たちは、ご利用者をお客様と呼ぶなど、福祉サービス事業者の中では、一歩引いたことから関わっているようなところもあります。しかし、私は、社会福祉士を持つている福祉用具専門相談員とし

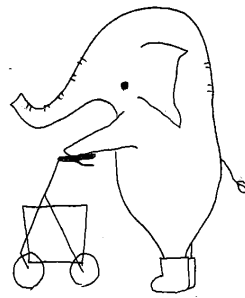
て、お客様との距離感を大切にしています。距離をおくということではなく、社会福祉士の専門性を活かし、お客様との距離を縮めて、「話をしたい」と思ってもらえるように寄り添っていききたいと思っています。



座長…渡邊さんの仕事は介護の現場により近いと思いますが、社会福祉士として現場に盛り込めることはありますか？

渡邊…権利擁護といった分野に携わる機会は少なく、社会福祉士としての知識を現場に活かしているとはいえないと思います。相談業務を訪問介護の現場にどのように活かしていくか、今後の課題だと思っています。在宅サービスでは、色々な職種がチームとして関わっ

ているので、チームの一員として連携を大切にしながら、ご利用者、職員、他のサービス事業者、それぞれとの人間関係を大切にして、業務にあたっています。



◆介護の現場で感じる社会福祉士としての葛藤

座長…社会福祉士として「これでもいいのかな?」「もっとこうすべきでは?」といった葛藤はありますか? また、その葛藤をどう乗り越えていますか?

川端…書類業務やサービス調整に時間を取られ、介護職と比べてご利用者と関わる時間や機会が少ないと感じています。自分が見たことと人から聞いたこととは、大きな違いがあるので、限られた時間の中でも、ご利用者と関わる時間、機会を増やし、きちんと状況を掴んでいきたいと思っています。

宮澤…日々、葛藤しています。福祉用具は介護サービス事業者ですが、一般企業として、営業職としての色が強い業務です。自分自身もまだ現場について知らないことが多いいのですが、ご利用者の ADL 向上や QOL 向上の視点を大切にし、お客様との関わりを増やすことで顧客サービスの向上につながると思っています。

渡邊…資格を取得してからは、時間に追われ、勉強をする時間が充分持てていないと思います。株式会社として、当然ながら実績の面は求められます。人のケアをする仕事ですが、対人援助の仕事が少ないので、もう少しそういった時間をゆとり取りたいです。

座長…業務として時間が限られている中で効率化を図ることへのジレンマを感じていますか?

川端…感じています。限られた時間の中でも工夫をしながらコミュニケーションを図っていききたいです。

宮澤…自分の担当のお客様とのアポイント、スケジュールリングは自分次第ですが、訪問件数が多く、時間に制限があります。その中でも、コミュニケーションを図りながら作業を行うなどして、少しでも関わりを深めたいと思っています。

渡邊…時間が足りないと感じることもありますが、限られた時間だからこそ、集中力をもつて関われるという側面もあると思います。



◆後輩へ伝えたいこと

座長…これから社会福祉士を目指す人や、若い社会福祉士に何を望みますか?

川端…社会福祉士の資格を持っていると言っても、色々な人がいます。それぞれ、人生経験、人間性に違い

があるので、その人だからこそ出来るものを、核となる想いをしっかりと持って育てていきたいです。

宮澤…福祉の視点を持った福祉用具専門「相談員」が増えるように、社会福祉士にも福祉用具に興味を持って欲しいです。福祉の視点を持つ福祉用具専門相談員が増えることで、福祉用具の提案の仕方も、変わっていくと思います。

渡邊…私自身も現在進行形ですが、視野と心を広く持って、日々勉強をさせて頂いているという姿勢を忘れない、個性のある社会福祉士になって欲しいです。

座長…一つのところに留まらず、人と接して視野を広げること、自分が持っている核を大切にしたい個性ある社会福祉士になって欲しいという視点が共通していますね。この座談会がきっかけとなり、社会福祉士が介護現場でネットワークを武器に活躍できるようにしていきましょう。

TOPICS 迫り来る医療難民時代に向けて

こすもす訪問看護ステーション

管理者 藤田 陽子

看護職として、様々な職場がある中、ご縁があつて訪問看護のフィールドで、泣いたり笑ったり感動しているうちに、早十六年が経ちました。この間の治療方法や医療機器の進歩と普及は「在宅でできること」を大きく拡大してくれました。そのお蔭で長期に在宅療養される方達が年々増え、高齢化の波がそれに拍車をかけています。課題は山積しています。訪問診療医や訪問看護師などの担い手不足、レスパイトの受け入れ機関の不足、核家族化に伴う老々介護、認知症・独居世帯の増加、がんターミナル期のサポート、更には介護保険が普及しても経済的余裕がなくて、サービスがあまり導入できない等々…。

今後圧倒的な病床数の不足から、

入院は急性期の短期間のみに限られ、「病院では死ねないかもしれない」時代を迎えます。さて、どう立ち向かうのか。病院にすべてをお任せしたい人生の最後の一時期が、今よりもっと大変なことになりそうです。各地で、尊厳ある療養生活を支えるための対策が検討され、柏市でも活発に取り組みられています。

でも、医療を受ける側の心構えも重要な気がします。人生観や死生観、家族の絆など、現実を受け入れつつ、普段から考えておくべきではないか…。人間関係が希薄な社会は、元気な時は問題無くとも、病んだ時は、ほとんど一人で対応するなど、現実を更に厳しくします。また、介護が大変なのは確かですが、今は介護保険もあります。できる範囲で大丈夫なのです。ただし、全く他人任せだったり、投げやりだったりすると、不

幸の連鎖を生むようです。要は根本に「愛情や感謝」があるのか、逃げずに「できる範囲でベストを尽くしたのか」が問われるのだと思います。

生まれた時と亡くなる時はどうしても人のお世話になるのが自然な流れです。謙虚になつて、クールな社会情勢に流されること無く「絆」を大切に育てる努力が、親にも子にも地域にも、今以上に必要になるでしょう。

社会福祉士の皆様は、地域の最前線で、医療制度の変遷に戸惑う声を、一番多く訴えられているのではないのでしょうか。その声に共感し、支持し、「当惑」を一段階昇華させ「意欲」に変えて下さっているとも思います。訪問看護もその恩恵に授かっています。私達を受け入れる時点で、患者さん達は何らかの「意欲」を持っているわけで、皆様のご活躍に日頃から感謝しています。

訪問看護は医療と生活の両面を支えるのが仕事ですが、たくさん

のドラマがあり、逆に人として大事なことは何かを学ばせてくれます。皆様の職場も同じでしょう。難しいことも多々ありますが、生活の糧を得ながら学べるのは幸せなことだと思っています。共に連携しながら頑張っていきましょう。今後ともよろしくお願いいたします。



東日本大震災 から学ぶ

聖徳大学人文学部社会福祉学科

四年 藤縄綾香

十二月四日、卒業論文の聞き取り調査をするために、沼南地域包括支援センターを訪問し、被災地支援を経験した社会福祉士へ、インタビューを行った。社会福祉士が被災地でどんな支援を行ったのかを知るために、卒業論文のテーマを『東日本大震災の被災地で社会福祉士は何をしたのか』に設定していたからだ。インタビューでは質問をいくつか用意した。その中の一つに、私たちの仮説とは大きく異なった点があることに気付いた。それは、「千葉県社会福祉士会はどういう経緯で被災地に赴いたのか？」についてだ。私は、現地の社会福祉士会からの要請だと思っていたが、実際は要請があったわけではなかった。千葉県社会福祉士会の会員が有志で、支援が必要と思われる被災地に赴き、お手伝いできることを探し、共鳴し

た会員が行動を共にしたということとだった。

有志の会員自ら行動する背景には、「被災地で何かできることはないか」「困っている人はいないか」という思いがあったのだろう。そこで、困っていることを発信できない人たちにも支援ができるように、アウトリーチを行った。

この、訴えを発信できない人たちを見つけて支援に結び付けるのは、専門性の高いボランティアでなければ難しいことである。これは社会福祉士にしかできない役割ではないかと思う。このように社会福祉士として、困っている人に対して何かしてあげたいと思い、自ら行動することは大切だと感じた。



聖徳大学人文学部社会福祉学科

四年 長谷川沙央里

卒業論文のテーマに『東日本大震災の被災地で社会福祉士は何をしたのか』というテーマを掲げ、被災地で支援を行った社会福祉士の方々にインタビューを行いました。被災地では多くの方が被害にあり、避難所生活を余儀なくされました。インタビューを通じ、何もかもなくなってしまう被災地で要援護者のニーズ調査等、一から支援を行っていく大変さを感じました。自分の知らない土地で支援を行う社会福祉士は、その土地のコミュニティや持っている力を把握することが大切だと感じました。壊すことなく、その力を復興へ導いていけるよう支援していくことが大事だと思いました。

津波の被害により、がれきがたくさん散乱している被災地の様子は、ニュースや新聞等を通して目にすることが多くあります。その様子を間近で見ることや、普段とは違う日常に身をおき支援を継続していくことは、大きなストレスやプレッシャーを感じる場面が多々あると思

います。そのため、支援を行う社会福祉士への精神的なサポートも必要となってくるのではないかと思います。

震災から丸二年が経とうとしています。避難所が閉鎖し、去年の暮れには陸前高田市の災害ボランティアセンターが閉所しました。被災地の現状も変化しつつあります。しかし、被災地には、まだまだたくさん課題が残されていると思います。これから多くの時間がかかると思いますが、何年経っても風化することなく復興へ歩んでいけるよう、私も福祉専門職として携わってきたいと思いました。



地域集会 つながるネットワーク

山武・東金・
芝山・横芝光
地区

十二月一日の地域集会について

芝山町地域包括支援センター

山下千草

山武地区の地域集会は年に四回、山武市・東金市・芝山町・横芝光町で、会場を持ち回りで実施しています。平成二四年度第三回の地域集会は、十二月一日に横芝光町のデイサービス『茶話処 一休』にて代表取締役である實川さんのお話を伺いました。参加者は十三名。その内三名は福祉大学の学生さんでした。学生さんが特に真剣にメモをとっているのが印象的でした。

實川さんは昨年度も、元ペンションの建物を借りて開所した『茶話処 一休』について発表してくださいました。今回の発表では、全て一から（建物を建てることから）スタートした経緯や、利用者を集める事、介護法、これから行いたいというレ

クリエーションの事まで、本音で話していただきました。建物の中で特にこだわったというお風呂とトイレについては、実際にどのような形で介助しているのかを見せてくださいました。*1青山幸広さんの介護法を実践しようと職員が月に二回、京都まで学びに行くなど、研修にも力を入れていることが伺えました。



また介護福祉士さんを対象に月に一回、勉強会も開催しているというとても素晴らしい取り組みだと感じました。

私が實川さんのお話で特に印象に残ったのは、何かトラブルや問題が起きたとしても、前向きに、楽しみながら考えるという事が大事だということでした。もちろん、なかなか毎回楽しみながらということはないかもしれませんが、なるべく溜めこんで悩まず、その日のうちに消化できるのがベストではないかというお話がありました。学生さんに向けて話したこともかもしれませんが、改めて自分の仕事のスタイルを見直すきっかけになりました。

私は社会福祉士会に入会したメリットのひとつが地域集会だと思っています。さまざまな分野の方の話を伺ったり事業所の見学ができる、さまざまな人と知り合い情報交換ができる、困った時には相談し合う関係ができるというのが、私にとって地域集会の魅力です。

私自身、できるかぎり地域集会には参加したいと思っていますし、この地域集会の事も、知り合った方々に紹介しています。世話人の西沢さ

んを始め、参加者みなさん素敵の方々なので、気軽に参加ができるのも魅力です。

今年度四回目の山武地区の地域集会は三月上旬の予定です。

ぜひ、おいでください。

*1 介護アドバイザーとして、介護技術の実技指導や講師として活躍。



社会福祉士の輪

ⅡアイデンティティⅡ

大戸 優子

なじみの方も、初めてお目にかかる方も、その中間の方も、こんにちは！

前号の森脇さんからこのコーナーのバトンを渡されました大戸と申します。なにしろ、いつもお世話になっている大先輩の森脇さんからとあつては、断ることもできずお引き受けいたしました。さて、何を書いたらいいのやら……。自己紹介も含めて、私が大事にしていることを書くかなと思います。

私は現在『中核地域生活支援センター』いちほら福祉ネット』で仕事をしています。ここで働きはじめて丸七年を過ぎたところです。中核地域生活支援センターは千葉県単独の委託事業で、福祉の総合相談・権利擁護・地域づくりという三つの活動

を一体的に行っています。まさに、社会福祉士という資格を存分に活かせる職場です。

元々は、市原市社会福祉協議会でボランティアコーディネーターや福祉教育担当、福祉作業所の指導員をしていました。その後、知的障害者更生施設や県社協での仕事を経験し、今また、市原の地域福祉にどっぷりと浸かっています。

これまで、けっこう山あり谷ありの人生を送ってきました。そのような中で一貫して強く求め失いたくなかったもの、それは「私が私であること」でした。そして、「私が私であること」の要素の一つに福祉の仕事に携わるといことがありません。大部分を占めているといっても過言ではありません。なぜそこまでなのかは、自分でもよくわかりません。とにかく福祉の仕事が好きで、この仕事をしていることで自己が確立されているという感じです。福祉の仕事をしていると言うと、よく「人のために偉いね」という見方を

されることがあります。私にとって福祉の仕事は、まったくもって自分のためなんですね。今の仕事に就けていることが、本当にありがたいと思います。

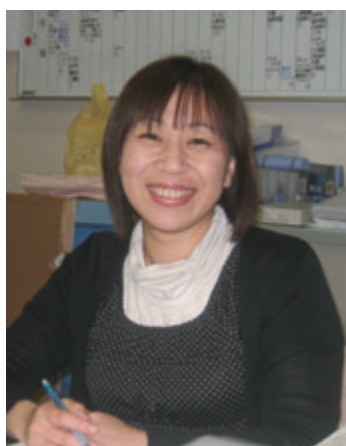
今、相談支援の仕事をしていて思うのは、「私が私であること」が大切なように、目の前の相談者の方一人ひとりの「あなたがあなたであること」を大切にしたいということです。

中核地域生活支援センターがめざす「誰もが、ありのままにその人らしく、地域で暮らすことができる」地域社会の実現という理念は、本当に心から共感できます。個々の相談対応と同時に、少し視野を広げ、誰もがお互いにそう思える地域をつくっていききたいと思うのです。そして、そうした仕事に関われることに、とても大きな喜びを感じています。

社会福祉士会には、素晴らしい志を持った仲間がたくさんいます。時

には意見がぶつかることも当然あるでしょう。そのような中で、刺激を与え合い、お互いを認め合い、切磋琢磨しながら、しっかりと手を携え、めざす先へ一緒に歩みを進めていきましょう！

これからも、どうぞよろしくお願ひいたします。



三団体リレーコラム

『ソーシャルワーカーの連携』

我孫子市役所社会福祉課

鈴木 将人

ソーシャルワーカーを生業とする職能団体、千葉県医療社会事業協会、千葉県精神保健福祉士（PSW）協会、千葉県社会福祉士会で構成する「千葉県ソーシャルワーカー三団体協議会」は、合同研修を一つの柱にして活動の幅を広げてきました。私も、合同研修の企画を検討するワーキングチームの一員として活動する中で、それぞれの団体に所属する皆さんとの交流が広がってきています。

昨年七月のソーシャルワーカー・デーのシンポジウムでは、「無縁とたたかうソーシャルワーカー」をテーマに私自身もお話しさせていただきましたが、ソーシャルワーカーとして「困っている方が問題を解決できるよう支援する」という目

的は同じでも、それぞれの職種で課題を捉える視点が違うものだな、と改めて感じました。

支援者として、支援を必要としている方への視点というのは、立場や専門性からどうしてもある程度固まってしまう、全方向から捉えるということは難しいし、逆に言えば一人の支援者が全てをカバーすべくでもない、と思います。私は、生活保護のケースワーカーとして仕事をする上で、要支援者の状況を把握するために様々な情報を得る必要があります。また、どうしても自分一人で関わっているだけでは見えてこない側面や、私自身が作り上げてしまうイメージで要支援者の実際の姿を見誤ってしまうこともあります。それを避けるためには、一人ですその方の人生を負うのではなく、その方を支える周囲の専門職やインフォーマルな資源を知り、それぞれをネットワークでつなぎ、情報交換をしていくことが重要です。

三団体の連携が強まることで、組織としてのみならず、会員同士も顔

の見える関係としてつながっていくことが期待されます。その活動の柱の一つである三団体合同研修では、共通して関心の持てるテーマの講演会とグループワークを基本形として毎年行われています。一つのテーマをそれぞれの立場で捉え、その内容について小さなグループで議論することは、お互いの視点の違いや、普遍的に共通している視点を理解することができ、有意義な時間となっています。

研修やグループワークで築いたネットワークを活用し、自分の業務についての助言をいただいたり、意見交換をしたり、という関係も広がります。更なるネットワークにつながっていくこともしばしばです。組織としての連携強化ももちろん重要ですが、個人的にこの広がり機会を活用していくことをお勧めします。平成二五年度にも、皆さんのお手元に「三団体協議会プレゼンツ」の合同研修のご案内が届くと思います。ぜひ手にとつてご参加いただければ、企画スタッフとしても嬉

しい限りです。



一般社団法人への移行について

(「報告」)

これまでも点と線や総会でお知らせいたしましたとおり、新しい公益法人制度が施行され、平成二五年十一月末日までに移行申請しないと自然解散となってしまう。本会は一旦一般社団法人へ移行し、将来的に公益認定を再検討することを選びました。

この原稿を書いている平成二五年一月現在、移行認可申請を県に出し審議待ちの状況。順調にいけば平成二五年四月一日に新法人への移行登記予定です。

ここで、新法人に移行して何が变わるの? という疑問にお答えいたします。

「変わらないこと」

●年会費は変わりません

日本社会福祉士会の連合体移行に伴い今年度から年一万五千元

になっていますが、日本社会福祉士の会費がからなくなっているので、合計額は変わりません。

●研修制度は変わりません

生涯研修制度とポイントは全国で統一されています。認定社会福祉士制度への対応も含め、新法人に移行するために変更される点はありません。

「変わること」

●公益目的支出計画

新法人への移行前にあつた資産は、計画的に公益的な事業に使わなければなりません。移行当初は、成年後見制度の活用支援に関する事業、また平成二三年度に臨時事業として行っていた被災者・被災地支援に関する事業を継続的な事業としてこれに充てます。対象事業は途中で変更する場合もあります。

●総会議決事項と理事会の責任

一般社団法人が公益社団法人に関わらず、新法人制度では理事会の責任が重くなります。総会で議決する事項は決算や役員の選任など、法令が定

款に定めがあり、かつ事前に通知した事項に限られます。また、予算・決算書類もこれまでとは変わります。

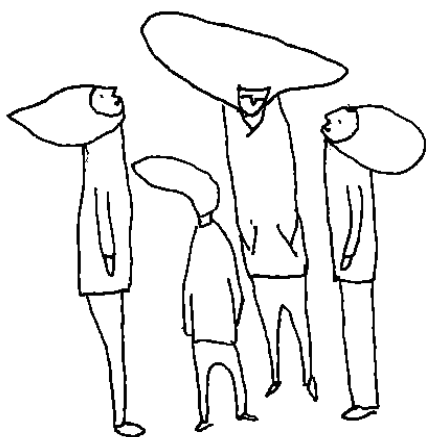
法律上、予算を総会に諮る必要もないため定時総会は年一回の決算総会のみとなりますが、本会は従来どおり三月にも(臨時)総会を開催し、予算および事業計画を総会に諮ります。また、役員の選任は総会議決事項ですが、役員候補者選出のため従来の役員選挙に準じた選挙を行います。

「直接は関係しませんが」

現在の会員証は社団法人日本社会福祉士会発行のものです。今後は本会発行のものに変わります。平成二五年三月期限の会員証をお持ちの方には、新法人に移行した四月以後に(事務委託先の日本社会福祉士会から)新しい会員証が届きます。

また、今後本会が担う事務量が増すことが予想され、これに備え事務局の移転を予定しております。新年

度予算が確定した後になります。決まり次第速やかに会のウェブサイトや点と線にてお知らせいたします。



第一回 独立型社会福祉士・ 千葉実践研究会

独立型社会福祉士委員会

委員長 大浦明美

平成二十四年十一月十七日、千葉大学けやき会館レセプションホールにて、第一回独立型社会福祉士・千葉実践研究会を開催しましたので報告します。

当日は、雨の降る悪天候にもかかわらず、千葉県内のほか、東京・埼玉・茨城など、計六九名の方に参加いただきました。第一回の開催にあたり、神山会長からのご挨拶として、千葉県社会福祉士会の現状と、地域における独立型社会福祉士の必要性について、お話をいただきました。

第一部は基調講演「成年後見制度の新しい展望」と題して、千葉大学法経学部部長の小賀野晶一教授にご講義いただきました。後見実

務の運用の問題点について、小賀野教授の穏やかな口調にして鋭いご指摘をいただき、また、私たち独立型社会福祉士の実践を理論で後付けされる部分もあり、参加者は身を引き締めて聞き入っていました。



第二部は、櫻井勉氏が座長を務め、独立型社会福祉士の実践研究を行いました。まず、「地域のゆるいネットワーク」と題して、地域でのゆるいつながりに関して、私、大浦が説明しました。その後、実践研究として、今川純子氏は、NPO法人地域福祉応援団Pねっとの認知症の啓発事業と地域のつな

がりについて報告しました。そして、「後見活動と被後見人の生活環境課題」として、奥野不二子氏は事例分析等と考察を述べました。最後に、「独立型社会福祉士としての活動・刑余者支援」について、犬伏謙介氏は刑余者支援の現状と課題を報告しました。登壇した四人の報告後、会場からは、千葉県内の二つの地域勉強会の実施報告や、その他多数の質問もあり、活発な実践研究会となり、盛況のうちに閉会となりました。

さて、第一回ということもあり、この実践研究会の開催に向けて、多くの機関、関係者にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

今後、研究会・定例会等により、独立型社会福祉士個人の活動に協力し、独立型社会福祉士同士の強いつながり・ネットワークをバックアップしていく委員会となるよう心掛けたく思っています。



事務局便り

日差しに春の息吹（と花粉）が感じられるようになりましたね。皆様いかがお過ごしでしょうか。

事務局も来年度に向けて、徐々に慌しくなってきました。

さて、4 月には新年度の年会費の引き落としがございます。勤務先やご住所の変更等、会員情報に変更が生じた場合には、下記「会員の皆様へお願い」欄を参照いただき、お手続き下さいませ。

研 修 等 ・ 行 事 の お 知 ら せ

平成 25 年 3 月 16 日（土） 平成 24 年度第二回通常総会

平成 25 年 3 月末 ささえあい負担金・納付期限（ご協力をお願いいたします。）

平成 25 年 5 月 25 日（土） 平成 25 年度第一回通常総会

平成 25 年 5 月初旬 基礎研修Ⅰ・Ⅱ、成年後見人養成研修の「告知・募集」開始予定

※その他研修等決定いたしましたらホームページに随時掲載いたしますので、是非チェックしてください。
千葉県社会福祉士会ホームページ：<http://www.cswchiba.com/>

会 員 の 皆 様 へ お 願 い

姓、ご住所、お電話・FAX、勤務先が変更された場合は、日本社会福祉士会へ変更届の提出が必要です。
入会申し込みをした頃とご変更がある場合は、お早めにお手続きをお願いいたします。

提出先：社団法人 日本社会福祉士会 事務局 / 〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-13 カタオカビル 2 階

TEL 03-3355-6541 FAX 03-3355-6543

※変更届は日本社会福祉士会ホームページの会員専用ページ「事務諸手続きについてのご案内」からダウンロード
出来ます。ご連絡頂いた変更内容は月末にとりまとめ日本社会福祉士会から都道府県社会福祉士会へ連絡されます。

**** 新事務局員のご紹介 ****

はじめまして！

1 月 10 日付をもちまして、事務局にて勤務することになりました萱原裕子です。

なにぶん初めての職務で、あらゆる面で不行き届きのこともあろうかと存じますが、誠心誠意職務に
当たる所存でございます。千葉県の「困っている人」のために、東奔西走されている皆様の縁の下の力持ちになれるよう
微力ながら努力致します。至らぬ点が多々ありますが、どうぞよろしくお願い致します

ようこそ！千葉県社会福祉士会へ

氏名	居住地	勤務先	氏名	居住地	勤務先
石坂 靖子	習志野市		能代 裕	佐倉市	
亀山 浩	九十九里町	五根の家	加藤 啓子	千葉市	オリーブ相談事務所
椎名 千鶴子	柏市		平岡 和美	佐倉市	佐倉市役所
谷野 宏樹		佐倉市社会福祉協議会	藤野 達也	千葉市	淑徳大学

※点と線 80 号の当欄において、下記のとおり氏名記載に誤りがありました。お詫びを申し上げるとともに訂正いたします。
正：倉方将夫さん 誤：倉片将夫さん

※正会員登録書「点と線掲載の可否」の項目で、可に○を頂いている方のみ掲載しております。（順不同・敬称省略）

平成 25 年 1 月末現在の会員数

正会員 1,282 名、 準会員 5 名、 賛助会員 3 名 合計 1,290 名